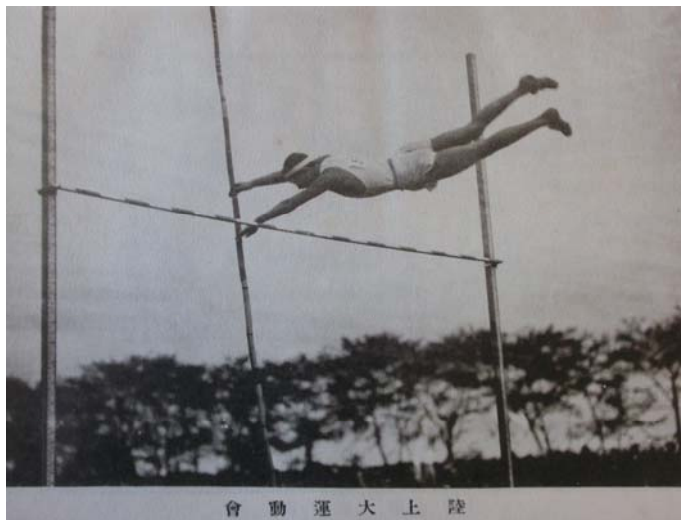




第1回一高オリンピック開会式 ↑

9月は、生徒全員がアスリートとして活躍する一高オリンピックの月。一高祭で行っていた体育祭が無くなったことから、体育的行事を求め声が高まり、昭和53年、6月に移った一高祭終了直後から「歩く会」までの間、秋空の下、ポールを蹴り、投げ、走りたいとの体育的行事を求め声が高まった。それに応え、夏休み直前に「一高オリンピック」の名称で実施が決まった。9月定期考査終了後、1・2年生による運営委員会が組織され、開催されたのがこの年(1978)9月19日。今年で31回目を迎える。



昭和2年(1927)の大運動会の一コマ(進修第27号より) ↑

### 一高オリンピックへの視線

一高オリンピックは、消えた体育的行事の復活を求める声に、生徒会はアンケートを取り、実施を決定した。創設当時の生徒会顧問の木村一郎教諭は、『この行事に、私は、かつての「一高祭」における「体育祭」とは全く異なる何ものかを見出した。そこには、「祭」的要素を全く払拭した素朴な「一高オリンピック」という名に相応しく、全校生徒が競技に参加し、応援し、一人ひとりの生徒の汗と血により克ち得た得点を競うことで、クラス意識を高揚するに相応しいものを感じとった。この行事の中に、かつて土浦中学時代の先輩達が春のポーターレースで一心に漕いだ精神も、今日、夢中で走り、ポールを追う精神も、形こそ異なるが、何か同じものを見つけていることができるのではないだろうか。同じ学び舎に学ぶ今の生徒達も、数十年前の先輩達が追い求めていたものを、同じ心で求めているのではないだろうか』と「進

修窓会報」(昭和53年刊)で述べている。この言葉を手掛かりに先輩達のアスリートぶりを見てみよう。

### 一高オリンピック事始め

昭和53年9月19日に、第1回一高オリンピックが開催されて、今年が31回目です。種目は当初、バレー・ハンド・バスケット・ドッジボール・ミニサッカー・卓球・テニス・クラス対抗千米リレー(クラス担任も走る)であった。その後新たな種目も加わり、一高の三大行事として定着した。近年、人気種目であった綱引きを大縄跳びに変えるなど一高オリンピックは常に変化し続けている。

### 中学校時代の体育的行事

アカンサス第3号で、学校創立2年目、生徒達は自分たちの手で運動会を主催し成功させたこと、やがて土浦中学校の運動会は、町と一体化した一大イベントに発展し、土浦町周辺の人々も大きな関心と期待をもって待ち望んでいたことを紹介した。

中学時代の体育的行事としては、春の水上運動会(ポーターレース)・秋の陸上大運動会・冬の雪中行軍・柔剣道の寒稽古が行われていた。今回は秋(?)の大運動会に焦点を合わせてみよう。

### 大運動会事始め

公式学校行事としての運動会(第1回)は、開校3年目、明治32年5月14日に行われた。主催は進修体育部であった。翌年(明治33年)刊行の「進修」第2号には、『緑門は、千代かえぬ常盤の葉も飾られ、竿頭百尺、数条の縄を張りかかげたる幾多の彩旗、翩翩として風に閃けり。轟然たる響きと共に大空に現れたる龍は、神立の里人が寄附せる烟花なり。唳々として佐保姫が琴の調あるは、土浦の町人が特に都より招きたる音楽隊の合奏なり。』と記され、既に土浦周辺の人々も協

力し、楽しみにする行事となりつつあった。来賓も二百人余、その他見物人で広い神立原は賑わい、整理のため警察官まで出動した。

この日も野球から始まり、障害物競走、旗取り、提灯競争など11種目が行われ、余興として綱引き、玉入れ等が行われた。その後、運動会は土浦周辺の人々が楽しみとする年中行事となり、毎年春に実施され、多くの見物人を集めた。やがて、春の運動会は、陸上大運動会として秋に移った。その理由は、詳らかではないが、創立10周年の明治40年(1907)、新しいポーターが建造され、艇庫も完成すると生徒達は、ポーターに熱中し、オールを握らざる者は亀城健児にあらずの風潮が強まった。「進修」第12号(明治42年刊)に、『陸上大運動会評判記』と共に『水上大運動会端艇競漕を行う』という記事が載せられている。このころから、陸上大運動会は、秋に移ったものと思われる。

### 進修会の自治制

陸上大運動会の概要は、大体次のようなものであった。企画・運営は現在の生徒諸君が行っているのと同じように、生徒が中心になって行った。

杉の枝を組んでアーチを作り、花火をあげたり、万国旗で会場を飾りつけもした。来賓席にはテントを張り、椅子を並べた。生徒の家族や一般の見物人は、筵(むしろ)に座って観戦した。運営面では、接待・賞品・会場・風紀・売店・記録・呼び出しなどの係がおかれた。風紀係はサーベルを下げて校内を巡視した。その粋な颯爽とした姿は、生徒達の憧れの的であったという。記録係は新聞も発行し、これを鈴を鳴らしながら観衆に配布したのである。これら運動会全体の運営は、進修会が中心になって行ったので「進修会の自治制」と自負していた。